



NPO法人 えべつ協働ねっとわーく

まち検の、 ススメ



- 江別まち検定ができるまで
- おもしろ発見に、きっと出会う!
- まち検定継続の、ススメ
- やったよ、江別まち検定!
- まち検定で、
人に出会うおもしろさ!
- まち参加の、ススメ





まち検の、ススメ

Contents

- 江別まち検定ができるまで 4
 - ・ 江別まち検定検討委員会について (石垣秀人)
 - ・ まち歩き分野がある、ふるさと検定 (木下清)
- まちは、すごい。おもしろ発見に、きっと出会う! 6
 - ・ ここがいいね、江別のまち (須藤睦)
- いよいよ受験日! 8
 - ・ セっかく、江別に住んでいるのだから! (松山和子)
 - ・ まちを知る、検定オリジナルテキスト (岡田久)
- まち検定実施、制作のソコが聞きたい! 9
- まち検定継続の、ススメ 10
- 上級編で、江別のまちのスペシャリスト! 11
 - ・ 学生時代に、まちを知ること (納口里菜)
- 江別子ども検定で、まちへ飛び出そう! 12
 - ・ 子ども時代にまちを知ること (佐藤一志)
 - ・ 大人と子どもがまちで出会うこと (金井正治)
- やったよ、江別まち検定! 14
- まち検定で、人に出会うおもしろさ! 16
 - ・ まちを知り、つながることで動くもの (久保泰雄)
 - ・ 江別まち検定、お手伝い! (小山内千尋)
- 江別市って、こんなにおもしろい! 18
- まち参加の、ススメ 20
 - ・ Work don't ran, でいこう! (白鳥健志)
 - ・ 知り合うこと、学び合うことの喜びと楽しさのささやかな試み (河合博司)
- 「江別市民活動センター・あい」へ、ようこそ! (古川淳子) 23

ふるさと検定で、江別への愛着を見直そうと提案したのは、民設民営の江別市民活動センター・あいを運営する、NPO法人えべつ協働ねつとわーく。江別市には150以上もの市民活動団体があり、行政や活動

NPO法人えべつ協働ねつとわーく

北海道の札幌市に隣接し、人口約12万人、4つの大学がある文教都市でもあり、森林や農業地帯などが占める割合が市内40%以上の「暮らしやすいまち」として名があがる江別市。しかし、一方で際立った特徴や印象を持ちにくい、という意見も多い。「江別ってなにもない」は、まちでよく聞く言葉でした。その言葉に江別への愛着をもう一度見直してほしい、という声も多くありました。

江別でふるさと検定を！



団体同士の連携・協働により、市民レベルからの「まちづくり」が期待されています。こういった活動に必要な情報や意見交換の機会、人材育成、連携などからまちづくりをお手伝いする、NPOです。

まち検定の、ススメ

江別市で実施したふるさと検定は、「江別まち検定」。その特徴は「住人や訪れた人たちが、生活レベルでまちを楽しむ」というコンセプトにあります。自分で見て、調べ、歩くという経験から、江別市を見直して欲しい。

たくさんの方の受験の申し込みがあり、検定後は、まちの歴史講座に参加する人や、江別市を案内したい！という人が増えました。自分のまちを好きになる。その原点に立ち返って、まちをもっと楽しんでもらえばと思っています。

NPO法人 えべつ協働ねつとわーくとは

2004年、江別市内約50の市民活動団体が集まり、情報交換や活動の活性化を目的とした「えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会」を結成。2005年9月に、市民活動の促進と協働を進めるための拠点となる「市民活動センター」の設立の提言書を提出。2006年に懇談会の有志がNPOを設立、江別市民活動センター・あいの運営と共に活発な市民活動、地域文化や協働のまちづくりを育むことを目的としている。

主な事業内容

- 交流促進事業
情報交換会、市民活動の取組みを知らせるパネル展等
- 情報提供事業
ニュースレター、ホームページ作成など。
- 活動支援事業
研修会・勉強会の開催、相談業務など。
- 人材育成事業
市民活動の促進に必要な調査・研究、提言、ボランティア養成講座など。
- 活動促進事業
市民活動を介した協働のまちづくり事業。例えば自治会と市民活動の連携・協働事業の課題整理など。



江別まち検定ができるまで

まち検定始めよう

江別のまちが好きな人をもっとふやそう、このまちでご当地検定をやろう！ NPO 法人えべつ協働ねっとわーくと江別市が協力し、2009年9月、ふるさと検定事業がはじまりました。でも、みんなが受けたと思うような検定にするには？ 他のまちにはない特徴ある検定にするにはどうしたらいいだろう。この最初のアプローチは重要です。そこで、最初に行ったのは「検定の検討委員会」の立ち上げでした。委員に参加した人は、NPOと関係のふかい大学教授、市役所職員や商工会議所職員、まちに詳しい様々な分野の人たち、総勢15名ほどでした。

何も無い、 を逆転したい！

「江別って何も無いまちだよな」に、そんなことない、このまちは良いまちだよ、と発信したい。しかし、確かに江別はダイナミックな歴史の中

心にあったまちでもなく、これしかないといえるほどの特徴もすぐにはでてこない。このまちならではの検定は、どうやったらできるだろう。むずかしい議題に検討委員会でも結論はなかなかでません。でも、「そういえばうちでこんなことしている」「去年はこんなことしたね」と、まちの動きが会話に次々とでてくる。そこで、検討委員会は、まちの情報交換、検定のためのアドバイスをいただく、意見交換の場となりました。

くらべない、まち検定

「大きな目標はあるものの、具体的にはどう構築しようか」「とりあえず形からはいるのもいいんじゃないかな?」。検定というからは、問題と試験。そこで、他のご当地検定を参考に、おもしろいまちの問題をつくってみることはじめました。しかし、検定スタッフは新規で雇われた人も多く、このまちに特別詳しいわけでもない。はじめて歴史を調べたり、資料館にいったり、活動は手さぐりです。やはり、他の検定

で見るとな目玉になる飛びぬけたまちの特徴は見つかりません。ところが、活動をつづけるうちに、まちの人たちと話す機会がふえ、まちのどんなところが好きかを聞けるようになりました。

「この行事を楽しみにしているの」「このサービスがあるから、助かってるんだわ」

まちの中や検討委員会でみつけた『このまちの良さ、おもしろさ』は、とても素朴で生活に密着したまちの情報でした。例えば、子どもがいる家庭にはこんなサービスありますよ、あの公民館にはこんな先生がくるのよ、駅の工事はこの時期におわりですよ。それはとても日常の話で、見落としていたようなことばかりでした。気づけば他のご当地検定と比べすぎて、まちの良さという軸が定まらなかつたのかもしれない。このまちを好きになってもうなら他の検定とくらべず、まちの人のリアルな楽しさから検定をつくるのも、NPOらしくて、いいんじゃないか。それなら、「江別まち検定」!



江別まち検定検討委員会の会議の様子

まち歩き分野がある、 ふるさとと検定

江別まち検定検討委員会
江別観光ボランティアガイド長



木下 清さん

まち歩き分野がある、というのは江別まち検定ならではです。まちを知る、好きになることは、本

を見るだけでは出来ない。まちを歩いて、本に書いていないことを目で確かめ、肌で実感する。そうやって自分なりにまちを理解していく事がまち歩きの醍醐味です。それはつまり、上っ面ではないまちを発見していくこと。知識だけではなく、見て、聞いて、感じて、江別を好きになることだと思います。受験の過程で、まち歩きをし、まちを体感する楽しさが伝わったらいいなと思いました。

江別まち検定 実施内容

- ・受験料…500円
- ・試験問題…マークシート方式
50問 100点満点
- ・出題範囲…地理自然、歴史、産業、生活文化の4分野
- （2011年から実施した上級編は、生活文化分野にまち歩き問題あり）
- ・合格基準…35問以上正解 70点以上合格
- ・合格発表…受験番号で「江別市民活動センター・あい」に掲示、および「江別まち検定HP」に掲載
- ◆出題範囲…初級編はNPO制作、オリジナルまち検定テキストから（上級編では市の刊行物、HPなどからも出題）

江別まち検定 検討委員会について

江別まち検定検討委員会委員
江別市郷土資料館 前館長



石垣秀人さん

検討委員会の使命は、まち検定制度に「江別らしさ」をどう構築するかです。検定試験までのプロ

セスで地域資源の再発見、掘り起しなど各種事業を展開する中、市民に「江別のまち」の理解を深めるツールとして、現行の形になったのは、検討の結果です。まち検定の合格者に一定の特典を与えながらも、検定に寄せた郷土愛を盛り立て、活躍の場、例えば市民力イドの拡充など、まちづくりの波紋を掬うサポーターの役割として大事な場と思います。

江別まち検定事業概略

- ふるさと雇用再生
特別交付金事業
- 事業名称…地元地域資源発見型地域
活性化推進事業
- ◆江別まち検定検討委員会の設置
- ◆江別まち検定攻略講座の実施
- ◆江別まち検定HP作成
- ◆宣伝、PRなどの実施
- ◆NPOオリジナル 江別まち検定テキスト、江別子ども検定用ノート制作
- 取り組み
- ◆江別まち検定の実施（初級編、上級編、江別子ども検定）

まちは、すごい。 おもしろ発見に、きつと出会おう！

「このまちの特徴って何ですか」より、「あなたが思う、まちの楽しさはどこですか」。生活や日常をたのしむ感覚を最大にして「くらべない、楽しさ」をみつけよう！

きけば聞くほど
おもしろい！

「江別の歴史っておもしろいのよ」と、声をかけてくれたのは市民活動センターにボランティアで顔をだす、年配の女性。戦争のときに、このまちの大手会社が臨時で飛行機工場になり、木製戦闘機をつくっていた！その名も「キ-106」。まちで戦闘機をつくる作業を手伝った人も数しれず。終戦時、戦争の痕跡が次々と消される中、キ-106の痕跡も消されていったはず。が、時をこえた現在。行方しれずになったはずの設計図が、みつかったぞ。

まちの人の体験談からみえる、大きな歴史の一端にかかわった今はな

き、しかし鮮やかにのこる記憶の間。「飛行場だった場所、知ってるよ」と教えてもらった場所にいつてみる。歴史にふれるってこういうことなんだ

なあ、と実感しました。ほかに、開拓期に北の大地に進出した北越殖民社、屯田兵たちの軌跡(子孫の方もいっぱい)、明治時代のくらしの話などもおもしろい。教科書にのらないからこそ身近で、臨場感をもって伝わるまちの歴史。次々に調べたくなります。たくさんヒントをもらいました。

歩けばあるくほど、
食べればたべるほど？

「江別のまちって、意外と歩けるんだよ」と、郷土資料館の館長さん。「ま



これがキ-106 木製戦闘機。木製ってすごい



セラミックアートセンター：焼き物のまち江別。その技術を知るなら、ここ！



江別小麦めん：麦の里えべつならではの製品がいっぱい





ちを歩くって、広いから疲れるよって
いうけどね。実は結構歩ける距離だ
よ」と、地図をみせてもらうと、国
道沿いなら市街地は10km弱。たしか
に歩ける。でもなぜ、歩く＝疲れる
イメージなんだろう？「目的地があ
るからじゃないかな」。

それならば、歩くことそのものを
たのしめば、みえるものも変わって
くるかも。スタッフが目をこらして、まち
を歩いてみると、あるある！

道路のマーンホールには、まち特有
の絵があつて、趣味で写真コレクショ
ンにする人もいるほど。風のつよい江
別にはあちこちに風見鶏もいる。そ
のデザインも江別上空にいるアオサ
ギや川をのぼる鮭。野幌森林公園に
いるであろうアカゲラも、風に乗って
くるくる回っている。全国シェア20%



あるきながら、おなががすいたら
まちのお店さんをのぞいてみる。
農業、特に小麦が有名な江別では、
スイーツやパンのお店がたくさん。
地元小麦の食品と他の地域のを
食べくらべたり、野菜の直売所に寄っ
てみては、こう食べればおいしい、あ
あでもない、こうでもない、まち
の人の会話を聞いてさらに自分もお
しゃべりに加われば、こんなにおも
しろい、あるく楽しみ！

さがす事、 知ることは

歩いて、調べてまちを知る。それは、

新しい自分発見でもありました。自
分の目でものを探すことは、「わたしっ
てこんなものが好きだったのね」とう
いう自分に出会うこと。今まで知ら
なかつたけれど、歴史がすきだつた
り、道をおぼえるのが得意だつたり。
たくさんの人も生活も歴史も全て抱
えているまちだからこそ、楽しみ方
には無限の選択肢がある。予想もつ
かない意外な自分に出会えること、
こんなに楽しいことはない！ まち
に飛び込み、あたらしい自分に出会
うことは、まちを好きになることと
同じです。



煉化もち：石川啄木の本にも登場した煉化もち。歴史にちなんだお菓子のたのしみは、ご当地ならではの

ここがいいね、江別のまち



私が江別のまちで特に好きなものは、お
いしい食べ物、風情のあるレンガの建物、大
きな石狩川の景色。もし、石狩川に観光ク
ルージングなんかあったらすてきな、とい
つも思います。広い空の下、ゆうゆうと流れ
る石狩川はいつも開放感に包まれています。

そこで、味わい深いポイドコーヒーを飲み、
美味しいサンドイッチなど食べながらゆった
り過ごす。そんなイベントがあつたらいいで
すね。言葉にしなくても、まちには素敵な
場所がたくさんある。もっとまちの楽しい場
所、良いところを見つけて、たくさんの人が
このまちを好きになつてくれたらいいな、と
思います。

上級編合格 江別市 市史・行政資料担当 勤務

須藤 睦さん



いよいよ受験日！

江別まち検定の第1回初級編は2010年10月に実施されました。80歳以上から、小学生まで幅広い年齢層、277名が参加しました。

受験者の80%以上は市内に住む方々でしたが、他の市町村からこられる方も50名弱いました。中には東京から！というツワモノも。開始1

時間以上も前からオリジナルテキスト

トを片手に受付に並ぶまちの人たち。

試験は緊張の1時間でしたが、終わ

ると同時に受験者同士が答え合わせ

をして、にぎわっていました。終了

後のアンケートには、60%以上の方

がまちを「もっと知りたい」、「江別

が好き」と答えていただきました。

せっかく、江別に住んで いるのだから！

上級編合格
デイホームかがやき施設長

松山和子さん



日々を楽しく過ごすためには、日常の楽しみ方を知ることが大事だと思います。それは、育ててい

る花を知ることと同じで、つまりはもっと日々をよく理解しようとするのだと思います。検定は江別を良く知るためのよい方法だったと思います。

最初は「江別について聞かれたら、答えられる程度にまちを知っておきたい」という気持ちでしたが、受けてみてなかなか手強い歴史があることを知らされた感じがします。「このまちは、なかなか良いところだな」と愛着ができました。

まちを知るテキスト

上級編合格 岡田 久さん



江別市は生活の場としての認識しかありませんでしたが、検定をきっかけにいろんなことを調べるようになりました。テキストは、

各部分について深く掘り下げたものではありませんが、まちのアウトラインを知る入門書としては、とつきやすかったと思います。

まちに興味をもつてから、自分が見てきた昔の江別のまちと現在の違いを感じるようになりました。昔の市政のあり方や産業の発展の仕方などを知ること、これからの江別を考えたり、話したりするのも大事なことだと思います。



江別まち検定試験は、 このように作りました。

NPO法人えべつ協働ねっとわーく
事務局長

橋本正彦さん



まち検定実施、制作のソコが聞きたい！ 実施をする側に必要なこと

検定をつくるのに
大切にしたい事は？

検定を受ける人には様々な動機があります。合格することを目標とする方もいれば、その後どう検定を活用するのか、に着目している方もいます。全ての方のニーズを充分に満たすのは難しいことですが、どの受験者にも共通しているのは、この検定のために時間とお金をかける、ということだと思います。スタッフが受験者のこういった気持ちや努力に真剣に向き合うことができると、細やかな配慮や検定全体の構想が進みます。

「そんなこと大事なの？」と思われる少し細やかな配慮の気持ちで、構想を練るくらいがちょうど良いと思います。認定証の形式はカード形式

か、それとも風格のあるスタイルが良いのか。問題用紙は持ち帰っても良いか、解答はどのように知らせるかなどの基本的なことから、合格者を対象とした交流会などを作ること

で後の検定の活用方法に生かすなどの工夫もあります。検定を始めるときには、こういった全体像をじっくりと考えることが大事です。

検定に使う資料は
どうやって集めたの？

まちには、たくさんさんの資料や情報があります。その中から使う資料を選抜するのは思ったより大変な作業です。まちの問題をつくることを前提に集めるならば、守らなければな

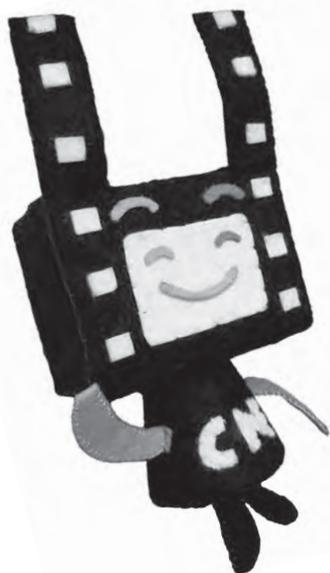
らない基準は絶対に公平性。まちの人が誰でもみれるような資料であるかどうかです。

誰も見れない資料なら公平に受験勉強ができないからです。最初は、図書館にある郷土資料や市役所刊行のものなどから集めるのが、オススメ。難しい問題を作る時も、「誰もが公平に勉強できるかの基準をどう解釈するか」を、念頭に資料集めの範囲をひろげていきました。

まち検定の問題は
どうやってつくったの？

資料を集めたら問題作り。江別まち検定の問題は50問、4択、マークシート方式、制限時間は1時間です。受験者の気持ちになって考えてみると、50問は結構多い。飽きずに解いてもらいたい！と、検討を重ねた結

果サクサクと読めるような短いリズムとテンポある文がぴったりでした。また、文章問題の穴埋めやシルエツト問題、写真あてクイズなども盛り込み、受験者が問題冊子を開いたときに「たのしそう！」と思えるようにつくりを目指しました。





まち検定継続の、ススメ

大好評だった、第1回江別まち検定。2年目はぜひ上級編や子ども用の検定も作って欲しい！という声がありました。でも、上級編はどんな構想で実施すればいいだろう、子どもが喜ぶ検定は？ 話し合いの結果、上級編はまちのガイドができる程度の難易度を設定。江別子ども検定は「まちを体感する」ことをコンセプトに、体験型検定を実施しました。



合格したら、 何かいいことある？

検定というからには、合格特典もないと！ 悩んだ末、また受けてみたいと思えたり、さらに江別を知るきっかけになる特典を考えました。1年目は協賛企業の方から様々な商品と、まち検定の人気キャラクターコラボちゃんストラップ、2年目の特典は、知られざるまちの魅力スポットを描き込んだ検定ノートと、お店のクーポンが付いた冊子を作りました。地域の多くの方から協賛を頂いてきた特典を持って、まちへ飛び出して欲しい、と思っています。



上級編で、江別の まちのスベシヤリスト！

もっと難しい問題をやってみたい！という声に、2年目から実施した「江別まち検定 上級編」。内容は、初級編と比べるとかなり難易度が高くなりました。上級編は実際に江別のまちを歩いていないと解けない「まち歩き分野」が特徴。スタツフがまち歩きをし、検討をかさね、苦心のすえつくりあげられた難問です。

受験当日、初級編で制限時間が余ってしまふほどの余裕を見せていた方々も、上級編ではほとんど時間いっぱいまで鉛筆をにぎっていました。

そんな難関をくぐりぬけた方々だからこそ、合格の喜びもひとしお。喜びを共有しようと、記念に合格者のつどいを開催し、たくさんの方に参加していただきました。

この交流会でも、江別のまちをテーマにしたお楽しみクイズを出題。江別産小麦パンの食べ比べや曲あてクイズなどを実施しました。クイズの対抗意識に熱が入り、最後は大笑いした後のような、「あー、楽しかった！」という満足の声が聞けました。

また、2011年度は酪農学園大で、授業カリキュラムの取り組みのひとつとして、100名以上の学生に江別まち検定を受けていただきました。「自分の学校の地域」を知ることの楽しさに積極的になっってもらえれば、と思います。

学生時代に、 まちを知ることに



酪農学園大学 2011年卒業
江別市内勤務

納口里菜さん

酪農学園の頃からボランティアとして市民活動に関わり、友達や学生だけでは学べないことを、たくさん学ばせていただきました。まち検定は第1回の時に受けたのですが、良い取り組みだと思います。就職後に関係が大切になっていくのは就職先の方々のことで、まちの事を知っているとお互いに話題も広がる。学生時代にまちを知ることが、視野を広げ、生活の意外な楽しさやおもしろさに気づくことだと思います。



まちへ飛び出そう！ 江別子ども検定

2年目の新たな試みは、『江別子ども検定』。自分の育ったまちを大人になっても好きでいてほしい、と願いをこめて実施しました。

五感をつかって！ 体験型子ども検定

子どもたちにも、まち検定を受けてもらいたい！という話は、検討委員会でも話題にあがっていました。子ども検定の案は「大人と同じペーパーテストではなく、地域を体験できるものが良いね」「江別の焼き物や森林、川などを体験しながら理解できるよ



うな、そんな検定にできないだろうか」との意見が、多く出されました。

そこで、江別子ども検定は、「五感」を使いながら江別を知ることテーマとして、組み立てられました。市内の全小学生を対象として参加を募り、集まったのは1年生から6年生まで、14名の江別っ子たち。郷土資料館の土器や石器にふれ、野幌森林公園では自然を発見する目を養う。江別の素材だけのパンを作り、自分だけの焼き物作りに挑戦など、様々な切り口でまちを体感してもらいました。

子どもの体験と 反復を大事に

子ども検定では、「まちの先生」たちとの連携と共に、ふたつの軸を大



事にしました。ひとつ目は、子どもが感じたことを表現するための「検定ノート」。体験前に、テーマにそった課題がノートで出され、考えてきてももらいます。調べてすぐ分かるものではなく、その場所に行って初めて

分かるものや、答えがひとつではないものなどを組み込み、自分の考えと共に参加することを、大切にしてもらいました。

ふたつ目は、全ての体験講座を「ふり返し」で復習する最終回。体験しっぱなしではなく、これまでの学びを、スタッフが遊び心いっぱいクイズ形式で実施。総復習に挑戦してもらいました。「え、そんなことまで!？」と、スタッフも覚えていないようなことまで、子ども達が楽しそうにまちの体験を話してくれました。

「検定ノート」と最終回の「ふり返し」を合わせて、この体験をいつまでも心に刻み込み、江別をほかのまちの人に胸を張って自慢できるように、大人になってもらえるのでは、と感じました。



子ども時代に まちを知ること



佐藤 一志さん
江別市郷土資料館 学芸員

言葉や九九、子どもの頃覚えたものは、頭の中の理屈ではなく、なんとなく体に染みついているものです。そのように覚えたことは、いくつになっても忘れず、日常生活の基盤になっています。子どものころに住んでいた地域やまちについても同じことが言えるのではないのでしょうか。まちについての色々なことが体に染みついている。だから、久しぶりに帰っても安心する。何も情報が無いところで暮らした時の不安感とは正反対の感覚です。その感覚がやがて郷土を思う気持ちに育っていくと思います。

だからこそ、子どもたちは体いっぱいまちを体験してほしい。理屈は二の次。大人になってからでも遅くはないと思います。このまちの郷土資料館には説得力のあるアイテムや実物資料がたくさんあります。資料を見せたり、可能な限り触れてもらったりすることで、まちを感じてもらったりすることが、大切だと思います。



大人と子どもが まちで出会うこと



金井正治さん
風の村 陶芸工房アトリエ陶

私はモノづくりをするので、子ども達には焼き物などを含め、たくさんの職人たちがいるこのまちで、「魔法の手」に出会って欲しいと思っています。今は知識だけならネットや本でいくらでも手に入りますが、実際にモノをつくることは知識だけあれば良いというものではない。体と知のバランスがあって初めて「できた！」になる。それを熟知した職人達の魔法の手に出会った感動は、きっと子ども達の心の何かを動かすと思います。こういった大人との出会いは、人生に影響を与えるくらい良いものではないでしょうか。

また、私たち大人も子どもとの交流の場を通して、たくさんのことを学べると思います。大人になると生活に精一杯でつい忘れがちな素直に楽しむ心、それを子ども達は知っている。雪が大人にとって雪かきを連想させる気の滅入る天気であっても、子ども達には雪遊びをするくらい楽しいものです。いつでも楽しさを見出せるあの気持ちには、私たち大人が忘れていた前向きな何かを思い出させ、学ばせてくれていると思います。



2011年 江別子ども検定 実施内容

1年間で、江別の子がまちで様々な体験をする検定。メニューは5回に分け3回以上出席で、認定証の授与

●プログラム

日程	テーマと体験内容	場所
① 7月	歴史：土器模様付け体験	江別市郷土資料館
② 7月	自然：動植物との触れ合い体験	野幌森林公園
③ 8月	産業：パン作りと江別の農業	江別市コミュニティセンター
④ 11月	文化：焼き物作り体験	陶芸工房 アトリエ陶
⑤ 2月	まとめと認定授与式	江別市民活動センター

※①②③④の回はバスによる運送、⑤は現地集合



●講師一覧

江別市郷土資料館：学芸員 佐藤 一志／野幌森林公園自然ふれあい交流館：普及啓発員 松井 則彰、扇谷 真知子／パンコーディネーター：森 まゆみ、道新文化センター講師等 森本 まどか／江別製粉(株)：本田 睦美／陶芸工房：アトリエ陶 金井 正治

●参加料 3,000円 (保険料・実費、資料代、バス代含む)

●江別子ども検定ノート持参

(NPO えべつ協働ねっとわーく作成 オリジナルノート)

やったよ、江別まち検定！



まち散策する 楽しさを発見

初級編合格 竹島 均

ランニングが趣味で市内を走っています。今回検定の勉強をしてからは、まち中が今までと違う風景に見えて楽しかったです。走りながら、今まで気づかなかった意外な場所がたくさんあるな、と感じました。検定は生活文化の分野がおもしろかったです。あちこちにあるオブジェを見つけに、まち散策すると楽しいかもしれません。

(@ほーむパソコンじゅく 代表)

読むだけのために まち検テキスト

初級編合格 竹内桂佑

江別まち検定受検に向けて、NPO法人えべつ協働ねっとわーく発行のテキストで勉強をしました。歴史や自然、建物が丁寧に紹介されており、読んでいただけでお手軽に「取材」できるため、仕事で「そんなことも知らないの?」と言われる回

数が少なくなりました。

(北海道新聞 江別支局勤務)

仕事とまち検を 両立させる醍醐味

上級編合格 高塚重憲

郵便局員は、場所を聞かれたりすることが多々あります。「そこを通るときにこんなものもありますよ」と、まちの案内もできたらいいなと思って受験しました。今は局内の応接室に合格証とテキストを置いてます。ここでお客様とまちのことを話せると楽しいと思って。検定の勉強は自分がまちを学んでいく第一歩になったと思います。これからも知識を深めていきたいです。

(野幌若葉郵便局 局長)

いつそう江別が 好きなまちに なりました

上級編合格 グローズ千鶴子

江別はいいところ?ときかれたら、もちろん!と答えられるようになり

ました。検定をきっかけに、友人とまちのことを話したり、図書館でも郷土史に興味を持つようになり、こんなに楽しいまちだったと知ることができ、感謝しています。受験やまち歩きも、楽しかったし、一緒に楽しめた友人にも、ありがたうを言いたいです。

江別の歴史が大好きになるきっかけ

上級編合格 長谷川薫

受験のきっかけは単純に楽しそうだから、でした。受験勉強の中で、歴史の史跡や痕跡を追いかけてまちのあちこちを回ったことが、本当に楽しかったです。まちの歴史を好きになったので、検定後は歴史の勉強会やイベントに行くようになりました。
(江別市内勤務)

季節を通じ見えるまちのうつろいに感動

上級編合格 佐山奈々子

まち検定を受験するにあたり、街を散策してみると、四季折々に違った景色を見ることが出来ました。札幌の隣町という江別ですが、自然も

多く、隠れたアート作品などもあります。まち検定を通じて今まで見過ごしてきた風景がより意味を成して感じられるようになりました。
(江別市内勤務)

車ではわからない、歩くことで知る江別の魅力

上級編合格 古林敏夫

まち歩きが面白い、という感覚は実際に歩いてはじめてわかります。本で知っていても実際に目で見ると、その印象は思いがけないものです。知らなかった！という実感は、とても楽しい。車で通り過ぎていた、いつもの道が違って見えました。

発見の楽しさを、深掘りしたい

上級編合格 伊藤勝夫

地元だから知っている、と思っていたのに、じっくり観察したり見たりしたことがなかったのだな、と実感しました。まち歩きをして、自分の目で見る楽しさを知りました。上級編は、もうちょっと難易度を上げてもいいかな。



まち検定で、 人に出会うおもしろさ！

まち検定をできるだけ多くの人に受けてもらいたい！そこで、PRをまちの様々な団体の方々に手伝ってもらうことに。その過程で出会えた方々もたくさんいました。まちづくりNPOにとっては、まちの方と出会う新たな機会でした。

まちで連携すること、 学ぶこと

まち検定受けてもらうためにもっと宣伝したい！思いはあれど、NPOだけで広めるには限界がありました。そこで、最初はまちのイベントに相乗りさせてもらい、会場でコーナーを設けさせてもらったり、まち検定〇×クイズ大会などを実施させてもらいました。そのうちに「今

までつながりがなかった人にも受験者になってもらいたい」「まちの企業に検定を知ってもらおう」と検討委員会やスタッフから意見が出ました。

そこで、今までつながりが薄かった企業関係の人たちに初のアクセス。初めての試みなので、こちらの意図がうまく伝わらない時もありましたが、いくつかの企業とつながり、協賛などから交流の輪が広がりました。



まちを知り、 つながること で動くもの

江別まち検定検討委員会委員
江別商工会議所専務理事

久保泰雄さん



がりを背景とした知識こそが、仕事をやるにあたって重要な役割を果たしてくれると思います。

江別市でも、老舗企業といわれる会社は、まちの特色を色濃く出しており、仕事の内容や方法も個性的です。地域に根ざすことは、企業や事業に個性や特色を出してくれることそのものであり、これからは益々強みともなります。

この検定には市民、NPOや市民団体などの他に、企業の方々も参加されました。それはとても良いことだと思いました。地元企業や事業主は、自分の仕事や技術的な内容だけを熟知していれば成功する、というわけではないのです。その土地の風土や人物、つな

まち検定を受けたからといって、お得意様が增えるわけでもない、すぐに利益の数字が現れるわけでもありませんが、数字で現れる以上のものを学ぶことは、これからの「まちづくり」は勿論、経済活動にも必要なことだと思えます。



江別まち検定宣伝活動例

- ◆ 各施設チラシ・ポスター 配布
- ◆ 検定攻略ビデオ制作（配信はインターネット上）による宣伝活動
- ◆ 各種イベント開催および参加
- ◆ 江別まち検定ウォークラリー、フォトロゲイン実施
- ◆ 江別まち検定出前攻略講座
- ◆ 北海道新聞、江別市報など地元紙への宣伝記事掲載
- ◆ HBC ラジオに出演
- ◆ 江別まち検定ホームページ制作

江別まち検定、お手伝い！

北陸銀行江別支店 係長

小山内千尋さん



北陸銀行は全行あげて、ふるさと検定を推進しています。銀行員は転勤もあります。でも、どこに行っても勤め先のまちを知り、共に活動する事はとても大切なこと

です。まち検定では、ロビーに資料や問題展示などをしてお手伝いさせていただきました。江別支店の全員が受験、合格しました。北陸銀行江別支店は、来年で100周年を迎える江別で一番歴史ある銀行です。まちと共にある姿勢はずっとかわりません。社員はまちのボランティアや行事にも参加していますので、見かけたら声をかけてください。そして、ぜひ気軽に立ち寄ってください。ロビーに、まちの人たちの作品や情報を展示して、お待ちしております。

石狩川：石狩川では春と秋、わたり鳥のために、ライトアップを中止している橋があります。



北海道江別市は、石狩平野のほぼ中央に位置する人口約12万人(2011年現在)の都市です。西に札幌市が位置し、北広島市、岩見沢市と隣接しています。大学が複数あり、文教都市としても有名です。一方で、森林や農業などが占める自然の割合が市の40%以上という恵まれた環境の中、「暮らしやすいまち」として支持されています。休日には小麦をはじめ、多目的の野菜が並ぶ直売所や貸農園などに多くの人が訪れるほか、全国シェア20%以上のレンガ生産地としても有名です。

市の東西を大きく流れる石狩川、千歳川などの支流は、縄文時代から重要な交通路、水産資源でした。明治時代移民が入り発展した対雁(ついでしかり)村から、大正にかけて榎本武揚の視察、屯田兵の入地、北越殖民社の開拓で未開だった土地が農業を中心に発展しました。人口が増え、江別町となり水運と鉄道の中継地点として賑わいます。その後、昭和に団地増設、区画整理が進展し、現在の約12万人都市になりました。

こんなところにも、歴史の足跡？

江別市の市章には、星と月が模られています。これは、まちの開拓に力を注いだ屯田兵たちが所属する陸軍の星章から。朝に星を見て、夕べは月を仰いで帰るといふ勤労の意味が込められています。

自然



新野幌小学校

江別市ってどんなまち？ そう聞かれたら、楽しい事がありすぎて、どこから紹介したらいいだろう。スタッフが見つけた江別一押しのもち情報を紹介！

江別市って、 こんなにおもしろい！



コロボちゃん：
NPO えべつ協働ねっと
わーくのキャラクターは、
コロボちゃん！

歴史

消えた集落

江別市に位置する東京ドーム約440個分もの大きさを誇る野幌森林公園。その中に、第2次世界大戦後、入植者を受け入れるための集落、「新野幌」がありました。現在、跡地は消えたとされていますが、よく目をこらして見ると…？



江別式土器：縄文時代中頃、北海道の土器文化が江別を中心に融合し、独特な土器文化がつくられました。特徴あるこれらの土器は江別式土器とよばれ、各地の博物館に展示されています。

ら、緑にめぐまれたまちをつくつていきます。

ふしぎな昆虫、みつけた！

オオルリオサムシを知っていますか？ 北海道固有種で、輝くばかりの羽をもつとても美しい人気の昆虫です。移動性が少ないため、同じ地域で近親婚を繰り返し特有の色になる特徴を持ちます。体の形は同じなのに、ニセコ町では青、札幌市南区あたりでは緑や赤。さて、江別市で見つけたオオルリオサムシは何色？

風に乗り、旅せよ オオウバユリ！

野幌森林公園で、早春に大きな若葉を広げるオオウバユリ。短いソーセイ型の実がなり、秋には3つに割れた実が、強い風が吹き大きく揺れた時に種を飛ばすそうです。風の弱い林内で繁殖するために有効だそうです。アイヌ民族は大事な植物質食品として暦にオオウバユリをあらわす言葉を使っていました。

産業

江別の産業は農業、レンガを中心とする窯業として製紙業が有名です。

開拓期より続く畑作は、ハルユタカに代表される小麦が最もたくさん作られています。レンガは明治時代から、野幌レンガとして親しまれ、現在も「赤レンガ」は全国生産量の20%以上。老舗企業は、製紙業の王子特殊紙(株)江別工場が代表です。また、小麦のまちらしく、スイーツも有名な江別。銘菓「煉化餅」、「江別まんじゅう」や「古代もんよう」、焼き菓子やケーキなど多士済々です。

ヤツメウナギ、食べた？

開拓期より大事なタンパク源となった現江別市の特産ヤツメウナギ。ウナギに似ていますが同じ分類ではありません。鼻穴一つ、目の横に7つのえら穴の不思議な姿。海で育ち川に戻ってきます。食物摂取で鮭などに吸い付き、体液を奪います。その味は…!?



ヤツメウナギ：さらに遠くから見ると目が8コに見える、ヤツメウナギ！

直売所にいつてみよう！

農業のまちでもある江別には、農産物直売所がなんと10ヶ所以上！夏には、直売所をまわるスタンブラーが開催されます。参加すると江別の農産物の詰め合わせなどステキなプレゼント抽選が。珍しい野菜が並ぶお店も多いので、この機会に生産者に調理法を聞きたい！と多くの人が参加します。

生活文化

円形校舎を知っている？

江別市で、ひときわ目立つレンガ造りの円形校舎、江別第三小学校。上から見るとドーナツ状で、中心にらせん階段があり、扇形の教室が配置されています。全国で、約100棟ほど建てられたとも言われていますが、現存は数少なく貴重です。



円形校舎：江別郷土資料館前にある第三小学校、円形校舎

有名人もいっぱい！

近年では、ノーベル化学賞受賞の鈴木章先生が有名ですが、歴史的に見ると活躍した方が、たくさんまちにいます。文化人も多く、北海道踊りで有名な坪松一朗や、黒澤明監督の映画で有名な作曲家の早坂文雄も！

こんなサービス知っている？

江別市では、平成22年10月より2歳未満の乳幼児がいる世帯や、常時紙おむつを使用している要介護者・身障者(児)の方がいる世帯を対象に、指定ごみ袋を無償で交付しています。対象になった方はぜひ、申請を！

まちのヒーロー、みつけた！

江別のまちの子どもにも大人気！消防署オリジナルキャラクター、江別消防特別機動救助隊員レスキューマン、レスキューハニー！ところが、それを上回る人気がある、ヒールのメラメラ星人。江別のゴミステーションに放火しているのを見たら、レスキューマンを大声で呼ぼう！



メラメラ星人たち：ご当地ゆるキャラ『えべちゅん』の他にも、まちにはキャラクターがいっぱい！



大正の江別港：川と鉄道の中継点として賑わった江別市街地。外輪船が石狩川を走る姿は、とても素敵だったそう。

まち参加の、ススメ

まちを知り、まちに生きることをみんなで学びたい。江別まち検定は、その思いが形になったものだと思います。でも、この思いの形は検定だけはない。これからも、心地良いまちのあり方を探し続けます。

Work don't ran で いこう!

NPO 法人 えべつ協働ねっとわーく
理事長

白鳥健志

「もっと市民参加!」
から、はじまりました

「江別を好きになる人をもっと増やそう!」と始めた「江別まち検定」。それを主催している『NPO 法人 えべつ協働ねっとわーく』も、市民がもっとまちづくりに参加しよう、参加する人を増やそう! そのため

の拠点となる市民活動センターをつくろう、と有志が集まり創設したものです。

その背景には、江別市内で活躍している約50もの市民活動団体が参加し、それぞれの市民活動の状況を話し合った『えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会』がありました。

多くの人たちの後押しでできたのが同NPOと市民活動センターで、言葉を変えて言うと「市民参加のまちづくりを願う人たちの願いが込められている」と言えます。

「大好き!」

「おもしろい!」こそ、
まちづくりの原点

こんな経緯から、同NPOの現在の事業内容は、イベントや市民活動の相談、お手伝い、行政との連携事業と盛りだくさんですが、やはり目指すところは、イベントも含めまち全体の動きに参加する人たちを、もっと増やしたい! 江別好き市民を増やし、市民主体のまちづくり活動へ



もっとたくさんの方が飛び込んで欲しいです。

でも、この目標に達するのはなかなか難しい。これだ、という決定的な方法はまだ誰も見出してはいない。だから、手探りでも「Work don't ran」(急がば回れ)。できるところからやってみよう。その仕掛けのひとつが『江別まち検定』と考えています。

事業を始めて3年余り。新しい発見や新しいつながりが、少しずつ見え始め、手ごたえを感じています。新しい広がり、まちづくりに参加する人たちを増やし、さらに関係を増殖させるでしょう。

この先にはどんな出会いがあり、どんなおもしろいことがあるのか。『まち』は、ワクワク・ドキドキ、びっくりも含んだ無限の可能性のある場所。そこに僕らは活きている。新しいまちの顔に出会う切り口となってくれた江別まち検定。他のまちでやったら何か違うものもみえるかな。これからも、たくさんの方のまちづくり、まち参加を目指す人たちと、繋がっていきたく願っています。



知り合うこと、 学び合うこと、 喜びあうこと、 楽しあうこと、 かなしみ



江別まち検定検討委員会 委員長
酪農学園大学教授

河合博司さん

地域・自治体づくりにとって住民参加という言葉は、行政文書では当たり前のことになっています。小規模な町村では日常の顔の見える関係性を活かした多様な試みも多くなってきています。また、「〇〇検定」という試みも全国各地で行われるようになってきています。

「江別まち検定」は、まち江別市全体を「知り合うこと、学び合うこと」の喜びや楽しさ「を共にする一助になれば」と始められました。個別の「まちの宝物」を江別全体の中で関連付けて考えてみよう、との想いでした。

何よりも感動したのは、事務局を

担った江別市民活動センター・あいのスタッフ（この方々の水準の高さと心意気は絶賛に値します）を中心に、私もメンバーの一人にさせていだいた検討委員会での真摯（かなり熱い意見交換も含めて）な議論でした。検定問題や参考書の水準の高さもさることながら、形を生み出す過程こそが遠回りなようでも人々の心に響く力の源泉であることを、再認識しました。

また検定当日の会場を包んだ空気には感動しました。開始前から10代前半の方から「高齢の方々までが、そこかしこでノート片手に最後の確

認をされている姿、終了後ロビーでたくさん輪ができて、出来具合や問題の内容そして江別のことについて談笑されている光景は感動的でした。

原発事故災害で全村避難を文字通り余儀なくされている福島県飯舘村の村づくりのスローガンは、「大いなる田舎 まだいライフいいたて」（第5次総合計画）だそうです。ままだいとは、「左右に揃った手を意味する真手（まて）の方言。『丁寧に』『大事に』『思いやりを持って』という意味で昔から飯舘村の暮らしの中で使われてきた言葉」（菅野典雄村長『美しい村に放射能が降った』117ページ）です。

この江別まち検定も、「丁寧に、大事に、思いやりを持って」、知恵と心を寄せ合って考え実践していく一つとして育つことを願っています。



まち検 DATA

受験者データ

初級

2010年 第1回 江別まち検定
(初級編)

受験者数 261人
合格者数 257人
合格率 98%

2011年 第2回 江別まち検定
(初級編)

受験者数 86人
合格者数 71人
合格率 82%

上級

2011年 第1回 江別まち検定
(上級編)

受験者数 106人
合格者数 49人
合格率 46%

子ども検定

2011年 第1回 江別子ども検定
合格者数 14人



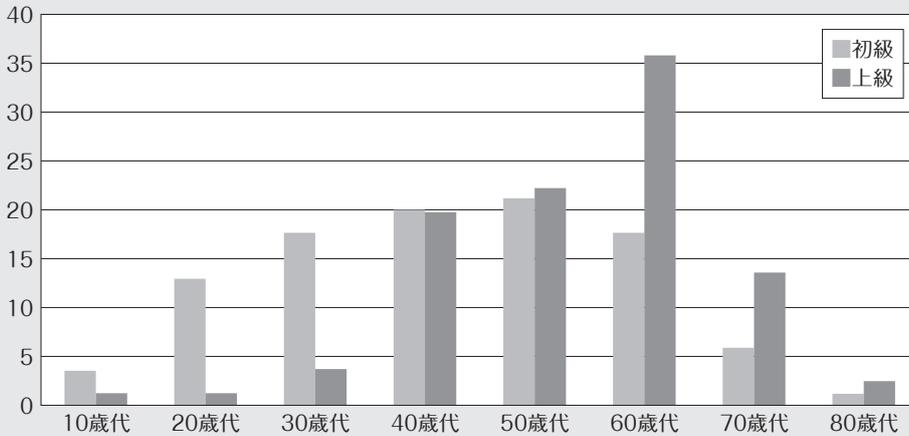
初級編 検定を受けた動機を教えてください

項目	%
江別が好き、知りたい。自分のまちだから	56
検定が好き、挑戦したい!	28
資格としてとりたい、仕事に役立てたい	8
友達がうけるから	3
学校や職場ですすめられた	3
その他	2
計	100

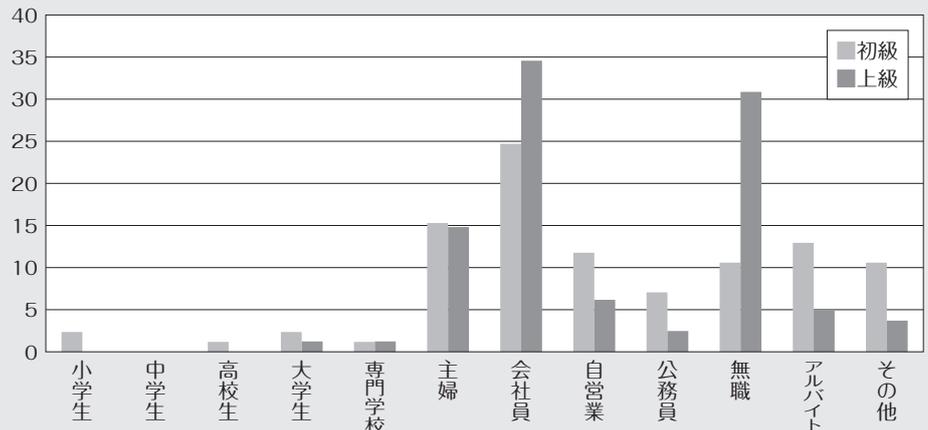
上級編 検定を受けた動機を教えてください

項目	%
江別が好き、知りたい。自分のまちだから	65
検定が好き、挑戦したい!	29
資格としてとりたい、仕事に役立てたい	3
友達がうけるから	1
学校や職場ですすめられた	2
その他	0
計	100

平成23年度 江別まち検定受験者データ(年代)



平成23年度 江別まち検定受験者データ(職業)



「江別市民活動センター・あい」へ、ようこそ!

江別市民活動センター・あいは、NPO 法人えべつ協働ねっとわーくが運営して、市民活動促進のための拠点です。「あい」には自治会の会議や趣味のサークル、市民活動団体など大勢の方が来館されます。みなさんがそれぞれの視点でまちを詳しく知る方々です。私もみなさんからそれぞれの語る、まちの話の聞かせていただき

江別市民活動センター・あい
センター長

古川淳子さん



いています。「知られざる幻の橋」や「珍しい風見鶏」「隠れた有名人」など実に面白い話がたくさんです。ここに勤め江別の歴史に詳しい方、まち歩きが好きな方、自然を愛する方、さまざまな分野の方たちと出会わせていただきました。センターのサロンで聞くまち話を集めていくと「なにもないまち」ではないと、気づきます。このまちには自然も場所も人も、おもしろくて楽しいことがいっぱいあります。まちの良さ、楽しさを共有したい、そんな思いで始めた江別まち検定。合格特典は私から「活動センターあい・コーヒー券」を提供しました。ぜひ、交流サロンでお友達とコーヒーを飲みながら、まち検定の問題の良し悪しや問題にして欲しい分野のことなどを一緒に語ってほしい。その会話もまた、新たなまちの宝物になると思っています。まちに飛び込み、まちに生きる楽しさを実感してください。

江別市民活動センター事業

2006年9月、NPOえべつ協働ねっとわーくの拠点として、職員1名とボランティア等1～2名の常駐体制でスタートした江別市民活動センター・あい。市民活動の活性化・支援を目的として、交流会や相談事業、人材育成、市民活動の促進に寄与する研修会・講座など、開設から5年弱で120を超える事業を実施しました。

●交流促進事業

- ・『交流会』の実施。〔市民活動団体・自治会・企業・行政〕の人々が簡単な飲み物・料理を楽しみながら率直な意見交換を行う。
- ・『あいカフェ』の実施。市民が気軽にセンターを訪れ交流や学びを行う(4回/月、歴史講座 毎月最終金曜日、4月～11月)。

●情報提供・活動支援事業

- ・コラボニュース(行政と市民連携の情報提供)の発行
- ・センター月報(毎月発行)
- ・協働のまちづくり活動支援事業:公開選考会、報告会
- ・研修会・講座等の開催

●相談事業

- ・市民活動団体、自治会、市民を対象に、個別相談・案内を随時受付。
- 〈相談件数〉 4月から3月末までの一年間で100件以上

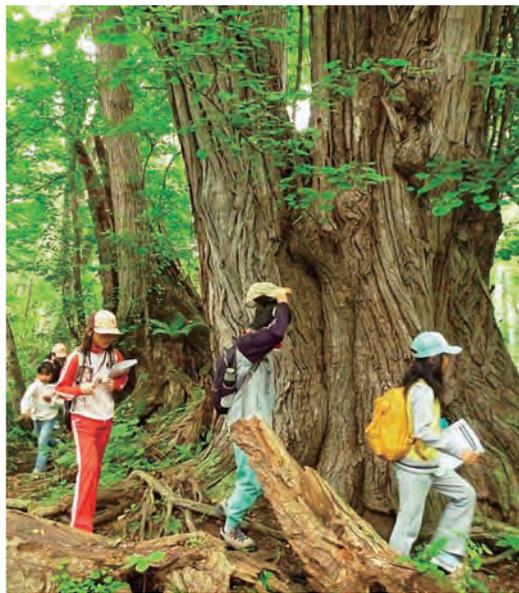
●人材育成事業

- ・研修会、講座等の開催
- ・プレゼンテーション講座、「ボランティア講座 学生編」講演会など。

2010年度 NPO えべつ協働ねっとわーく実施事業例

開催日			事業名	分類	開催日			事業名	分類
月	日	月			日	月	日		
6	5	中津湖清掃(川づくり有志の会と連携)	連携	10	16	環境フェア★イン八幡	連携		
6	19	平成21年度協働のまちづくり活動支援事業公開選考会	受託	10	24	江別まち検定	受託		
7	3	篠津兵村フットパス(篠津資源保全会と連携)	連携	11	21	野幌老人憩いの家活動交流発表会	自主		
7	19	私をひまわり畑につれてって(ひまわり迷路制作、実施。美原有志の会と連携)	連携	11	27	えべつ土曜広場のつどい	連携		
8	8	江別市民活動見本市 with フリーマーケット	受託	12	4	プレゼンテーション講座	受託		
8	22	江別まち検定 ウォークラリー	受託	12	11	PPT 講座 中級編	自主		
8	28	江北地域探訪&収穫祭(江北地域まちづくり会議と連携)	連携	12	17	平成22年度 活動センター交流会(忘年会)	自主		
9	4	江別まち検定攻略講座	受託	12	18	転ばぬ先の勉強会!～転んでからでは遅すぎる～ Pieceに協力	協力		
9	25	親子キノコウォッチング	自主	2	5	自分で治せる 膝痛・肩痛 Pieceに協力	協力		
9	25	We えべつ とんでん祭	連携	2	19	平成22年度協働のまちづくり支援事業報告会	受託		
10	2	えべつ消費者まつり	連携	2	27	第4回江北ふれあい祭り(江北地域まちづくり会議と連携)	連携		
10	3	市民講座 松村先生講演会	自主	3	25	ボランティア講座 学生編 ボランティアって楽しいかも	受託		
10	10	キノコでミニライブ 大谷木氏ミニライブ	自主	3	28	川北先生講演会&ワークショップ	受託		

他にも、「江別市野幌老人の憩の家」の指定管理者を、2008年度から江別市より受託し、映画会の開催、懇談会・アンケート実施、などを開催。



発行・編集
NPO法人えべつ協働ねっとわーく
〒069-0813 江別市野幌町 30-1
TEL: 011-374-1460 FAX: 011-374-1461
Email: center-i@kind.ocn.ne.jp

